

ダニエル書5章「高慢の後の破滅」

1A 破滅前夜の大宴会 1-4

2A 破滅の前兆 5-12

1B 震え上がる王 5-8

2B 王母による紹介 9-12

3A 破滅の宣言 13-28

1B 解釈の願い 13-16

2B 父の教訓 17-21

3B 偶像礼拝の愚かさ 22-24

4B 文字の解き明かし 25-28

4A 突然の破滅 29-31

本文

私たちのダニエル書の学びは、5章に入ります。世の終わりの兆しが強くなっていると感じるこの頃ですが、改めて、ダニエル書を通して神のご計画をじっくりと見ていっています。4章で私たちは、ネブカドネツアルが、痛い経験でへりくだりを学び、それで、獣のようにされてから回復し、威光と輝きが戻ってきたというところを見ました。しかし、ついにその威光がなくなる場面をこれから読みます。バビロン帝国が終わります。ただ終わるのではなく、突如として破滅します。その最後の王、ベルシャツアルは、ネブカドネツアルに起こったことから教訓を学びませんでした。高ぶりしました。

しかし、箴言であるように、「16:18 高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。」ということです。彼は、すぐに殺されるのです。私たちは前回、じっくりと終わりの時のしるしが、人々の高ぶりであることを見ました。そして今回は、その高ぶりは滅びに先立っているという警告をしっかりと受け止めたいと思います。

1A 破滅前夜の大宴会 1-4

¹ベルシャツアル王は、千人の貴族たちのために大宴会を催し、その千人の前でぶどう酒を飲んでいた。

時は紀元前 539 年のことです。ネブカドネツアルは紀元前 562 年に亡くなっています。彼の息子エビル・メロダクがその後を継ぎました。彼は、列王記第二の最後とエレミヤ書に出てくる、ユダの王エホヤキンを丁重に取り扱った人です(2列王 25:27-28)。けれども、その生活は乱れており無責任であったため、二年後ネリグリサル(Neriglissar)という者に殺されています。ネリグリサルは、エレミヤ書 39 章 3 節に出てくる、エルサレムの町に入ったバビロンの首長の一人「ネルガル・

サル・エツェル」です。彼が王位を取り、彼が死んだ後、息子が跡を継ぎましたが、すぐ、ネブカドネツアルの息子ナボニドスはその息子を暗殺しました。

ナボニドスは宗教的な人でした。彼の母が、ハラン(創世 11:31)における月の神の、大・女祭司だったからです。(アブラハムがバビロンのウルの町を出て、カナン人の地に行く前に、父テラがいたのでハランの町にとどまりましたね。)彼はバビロンの宗教を再興し、多くの寺院を再建しました。そしてアラビア地方を攻めて、テイマ(Teima)に暮らしていました。政治の世界から離れていたのです。そしてナボニドスは自分の長男であるベルシャツアルを立てて、都バビロンにて共同摂政、つまり共同の統治を行なわせました。ですから第一の権力はナボニドスなのですが、第二の権力者がベルシャツアルです。それで、後でベルシャツアルが文字の解き明かしをした者に、「**第三の権力を持たせよう**」という褒美を与えようとしています。父子による共同摂政が理由です。

ベルシャツアルが千人の貴人のために大宴会を催しているということ、そして彼が彼らの前でぶどう酒を飲んでいるということ、これ自体は古代の王国においてはよく見られる光景でありました。エステル記のことを思い出してください、1章でクセルクセスが、すべての首長と家臣たちのために宴会を催したとあります。それは、王国の輝かしい富と、そのきらびやかな富を示すためであり、金の杯で酒をふるまっています。その杯は一つ一つ違っていた、とまで書いてあります。これはペルシア時代ですが、バビロン帝国においてもこれを行っていたのです。

けれども問題は、今、この時点ではそのような宴会をする時では全くなかったということです。この時、バビロンの都はメディア・ペルシア連合軍によって包囲されていたのです。前に、今のイランにあるエラム州からキュロスが出現していました。彼がメディアと戦ってペルシアがメディアを併合しました。ペルシア軍はバビロンの多くの地域を征服しており、今、都バビロンを包囲していたのです。ところが、なぜかベルシャツアルは、千人の貴人らのために大宴会を催していたのです。これは、異常事態であります。無感覚になっています。

ベルシャツアルは、自分は安全だと思っていました。バビロンの町の防備は半端ありませんでした。町は一辺が約 22.5 キロの正方形をしていました。二重の城壁になっており、一つの厚さは 26.5 メートルほどです。歴史家ヘロドトスは、城壁の上を馬が引く戦車が四車線通行をできたと記しています。そして高さが約 107 メートルです。地下にも奥深く壁が入っていたと言われています。そして南北にユーフラテス川が流れています。川からの進入を防ぐために、南北の水門のところには大きな柵があり、そして川の両岸にも壁がありました。橋がかかっている、そこからしか東西の地域に行き来できませんでした。その他にも高い塔、青銅の門など防備においてはこれほど頑丈なものはありませんでした。そして、キュロスがどんどん進出してきたので、備蓄をしていました。20 年ぐらい食べられる食糧もありました。ユーフラテス川が中央を流れていますから、水の確保には全く問題がありません。だからベルシャツアルは大宴会を催したのです。「私たちは難攻

不落である。無敵であり、不滅である。」と誇示したかったに違いありません。でも、どうでしょうか？その夜にペルシア軍はこの宴会場まで入ってきて、ベルシャツアルを殺します。使徒パウロは言いました。「1テサロニケ 5:3 人々が「平和だ、安全だ」と言っているとき、妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破滅が彼らを襲います。それを逃れることは決してできません。」

² ベルシャツアルは、酒の勢いに任せて、父ネブカドネツアルがエルサレムの宮から持ち出した金や銀の器を持って来るように命じた。王とその貴族たち、および王の側室たちや侍女たちがその器で飲むためであった³ そこで、エルサレムの神の宮の本殿から持ち出した金の器が運ばれて来たので、王とその貴族たち、および王の側室たちや侍女たちはその器で飲んだ。⁴ 彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した。

どうしてこの機に及んで、わざわざエルサレムの神殿から取って来た器を持ってこさせたのか？ネブカドネツアルがこれらの器を持ってきたのは、紀元前 605 年のことですから、もう 66 年前のことです。1 章 2 節ですが「主は、ユダの王エホヤキムと、神の宮の器の一部を彼の手に渡された。彼は、それをシニアルの地にある自分の神の神殿に持ち帰り、その器を自分の神の宝物倉に納めた。」とありました。そして、その器にぶどう酒を注ぎました。さらにバビロンの神々、しかし、金銀、青銅、鉄、木、石にしかすぎないものを賛美しました。

これは明らかに、バビロンの神々がエルサレムの神々を征服したことを示している行為です。後でダニエルが、ネブカドネツアルが天の神によってへりくだらされたことを話しています。獣のようになったことを話しました。ですから、ベルシャツアルは意図的にネブカドネツアルの証しを拒んだのです。バビロンの神々にまさる方であることを、ネブカドネツアルは証したのですが、そんなことはない、私が偉大であり、バビロンの神々が偉大なのだと虚勢を張っています。

主はこのような時に、怒りを発せられます。ファラオが、イスラエルの民を虐げた時に、モーセとアロンがわたしの民を出て行かせなさいと言っても、「主とはだれだ。私は知らない。」と言って、不遜にふるまい、エジプトの魔術師を信じました。アッシリアがエルサレムを包囲した時に、他の外国の神々はアッシリアに打ち勝つことができなかったのに、なぜエルサレムの神が打ち勝つことが出来ようか、と挑みかかり、他の神々とエルサレムの神を一緒くたにしたので、神はアッシリアを打ち砕くことをお定めになりました。

神は、それまでは、そうした神々を放置しておられるのです。ご自身の栄光をそのような形で暗ますものを、裁かれます。これは、私たちが異教の社会に生きている時に大事な真理です。神社仏閣を見て、これは偶像礼拝だからいけないのだ！と路傍に出て叫ぶのでしょうか？いいえ、イエス・キリストの福音を知っていただくことが神の御心です。けれども、キリストの光が当てられて、自分に罪があることを拒み、意図的にキリストの十字架は要らないとするならば、罪のための赦し

がもはやなく、神の怒りがその人に留まることになります。

2A 破滅の前兆 5-12

1B 震え上がる王 5-8

⁵ ちょうどそのとき、人間の手の指が現れ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側のところに何かを書き始めた。王は、何かを書くその手の先を見ていた。⁶ すると、王の顔色は変わり、いろいろと思いを巡らして動揺し、腰の関節はゆるみ、膝はがたがた震えた。

「王の宮殿の塗り壁」であります、バビロンの遺跡の中で発見されています。宮殿の宴会場は、幅が約 17 メートル、長さが約 53 メートルという広いところです。そこに王が着座していたのはいかと思われるくぼみが真ん中にあり、その後ろに白い塗り壁が見つかっています。燭台によって、煙が出ていたことでしょう、しかしその壁を照らしていたものと思われます。そこに、この人間の手の指が現れて、物を書き始めたのです。

こうやって、エルサレムの神殿の器を使ってぶどう酒を飲み、バビロンの神々を賛美して誇り高ぶっていたその虚勢は、一気に恐怖へと変えられました。その様子は、まるで漫画のようです、関節が外れて、膝ががたがたに震えています。イザヤが、ペルシアの王キュロスを預言した時に、「45:1 わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。」と主は言われました。

⁷ 王は大声で叫び、呪文師、カルデア人、占星術師たちを連れて来させた。王はバビロンの知者たちに言った。「だれでも、この文字を読んでその意味を私に示す者には、紫の衣を着せて首に金の鎖をかけ、この国の第三の権力を持たせる。」⁸ そのとき王の知者たちがみな入って来たが、彼らは、その文字を読むことも、王にその意味を告げることもできなかった。

ベルシャツアルは、大声で叫びました。呪文師、カルデア人、星占いを連れて来させています。そして、すぐにこれを解き明かすのであれば、褒美をあげると言っています。ここに、「第三の権力」が出て来ます。父はナボニドスであり、第一の権力です。自分は第二の権力です。そして自分の次に第三の権力を与えると述べています。

非常に俗的な人間であると感じます。聖なる神の現れに対して、ただ怯えるだけで、へりくだりや悔い改めに導かれていません。その恐怖から逃れたいばかりに、法外な報酬で家臣たちを動かそうとしています。晩年のネブカドネツアルとは対照的です。彼は初めの幻の時は心が騒いでいると言いました。そこには、何かとてつもない畏怖に近いものを感じて、そこにある真意を受け取るうとしています。ベルシャツアルにはありません。非常に俗的です。

2B 王母による紹介 9-12

⁹それで、ベルシャツアル王はひどくおびえて、顔色が変わり、貴族たちも途方に暮れた。¹⁰王母は、王とその貴族たちとのやり取りを聞いて、宴会の広間に入って来た。王母は言った。「王よ、永遠に生きられますように。いろいろと思い巡らし動揺してはいけません。顔色を変えてはなりません。」

王母が出て来ました。ネブカドネツアルの娘であったでしょう。ですから、直接、ダニエルのことを知っています。

¹¹ あなたの王国には、聖なる神の霊の宿る人がいます。あなたの父上の時代、彼のうちに、才気と聡明さと、神々の知恵のような知恵があることが分かりました。あなたの父上であるネブカドネツアル王は、彼を呪法師、呪文師、カルデア人、占星術師たちの長として立てられました。¹² 王がベルテシャツアルと名づけたダニエルのうちに、夢を解き明かし、謎を解き、難問を解くすぐれた霊と知識と聡明さがあることが分かっていますので、今、ダニエルを召して、その解き明かしをさせましょう。」

王母は、ネブカドネツアルがダニエルを評価したとおりのことを話しています。ネブカドネツアルは、ダニエルに、「おまえには、聖なる神の霊がある(4:18)」と言いました。そして、光と理解力があり、神のような知恵がある。そして、あらゆる知者の長としていたということ。そして夢や謎、難問を解く理解力があること、全て話しました。

ところで、ベルシャツアルに対してネブカドネツアルを「父上」となっています。実際はナボニドスの父なので、彼にとって祖父ですが、けれどもその影響下にあり、権威や系統の中にいれば、祖父であっても先祖であっても、「父」と呼びます。新約時代には、ユダヤ人宗教指導者が「私たちの父はアブラハムです」と言いました。キリスト者に対しても、彼の信仰の足跡に従って歩むなら、彼は父であるとローマ4章12節にあります。そして事実、そんなに年が離れているわけではなく、ネブカドネツアルが王であった時、彼は十代にはなっていたであろうと考えられます。

3A 破滅の宣言 13-28

1B 解釈の願い 13-16

¹³ そこで、ダニエルが王の前に連れて来られた。王はダニエルに対して言った。「私の父である王がユダから連れて来た、ユダからの捕虜の一人ダニエルとはおまえのことか。¹⁴ おまえのうちには神々の霊が宿り、また、おまえのうちに、才気と聡明さとすぐれた知恵があることが分かったと聞いている。¹⁵ とところで、私は、知者、呪文師たちを私の前に召し、この文字を読ませて、その意味を私に告げさせようとしたが、彼らはそのことばの意味を示すことができないでいる。¹⁶ しかし、おまえは解釈することができ、難問を解くことができると聞いた。今、もしおまえが、その文字を読み、その意味を私に告げることができたなら、おまえに紫の衣を着せて首に金の鎖をかけ、この国の

第三の権力を持たせよう。」

ベルシャツアルは「聞いている」という言葉を繰り返しています。既に、宮廷から離れたところに置かれていたのではないかと思います。ネブカドネツアルやその後のダレイオスも、彼を重用したのに、そうではなかったということは、ベルシャツアルには、ダニエルの証しには無頓着でした。

また、王母が、「聖なる神の霊の宿る人」とわざわざ言って、他の神々と異なることを話していたのに、単に「神々の霊が宿り」としか言っていません。しかし、知らなかったわけではありません。エルサレムの神の宮からの器を持ってこさせたのですから。そしてダニエルが後で明かすように、ネブカドネツアルが神の前で卑しめられたことを知っています。情報として知らなかったのではなく、心を頑なにしているから知らなかったのです。「ローマ 1:21 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。」

2B 父の教訓 17-21

¹⁷ そのとき、ダニエルは王の前で答えた。「贈り物をご自分で取っておき、報酬はほかの人にお与えください。しかし私は、その文字を王のために読み、その意味を告げましょう。

ダニエルは、「王よ、永遠に生きられますように。」という挨拶言葉をネブカドネツアルには、使っていましたが、ここでは使っていません。そして、きっぱりと、贈り物を受け取ることを断っています。聖なる人、神の人として何でも報酬で済ませようとする俗なるものを受け取ることを拒んだのです。

アブラハムもかつて、ソドムの王に同じように対応しました。ロトを救出した後に、サレムの王メルキゼクが彼を祝福しました。アブラハムは彼に十分の一を捧げました。その後ソドムの王が来ました。「財産はあなたが取ってください。」と言ったところ、アブラハムはこう答えました。「創 14:22-23 アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地を造られた方、【主】に誓う。23 糸一本、履き物のひも一本さえ、私はあなたの所有物から何一つ取らない。それは、『アブラムを富ませたのは、この私だ』とあなたが言わないようにするためだ。」アブラハムは、自分を富ませている神の栄光をソドムの王が奪い取りはしないかとおそれたのです。イエス様はヘロデの前で、同じ態度を取られました。奇跡か何かやってくれるだろうと思っていたヘロデに対して、口を一切開きませんでした。こう言われましたね。「マタ 7:6 聖なるものを犬に与えてはいけません。また、真珠を豚の前に投げてはいけません。犬や豚はそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたをかみ裂くこととなります。」

¹⁸ 王よ。いと高き神は、まさしくあなたの父上ネブカドネツアルに、国と偉大さと栄光と威光をお与えになりました。¹⁹ 神が父上にお与えになった偉大さによって、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはことごとく、父上の前に震えおののきました。彼は思いのままに人を殺し、思いのままに人を生

かし、思いのままに人を高め、思いのままに人を低くしました。²⁰ こうして彼は、心が高ぶり、霊が頑なになり、高慢にふるまったので、その王座から引きずり降ろされ、栄光を取り上げられました。²¹ そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野ろばとともに住み、牛のように草を食べることになり、からだは天の露にぬれて、ついにこう知るようになりました。いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになるのだと。

ダニエルは 4 章で起こった出来事を、語っています。第一に、ネブカドネツアルに「国と偉大さと栄光と威光」があったのは、あくまでも、いと高き神が与えられたものです。第二に、その権力によって、王は自分の思いのまま、その主権によって何でもすることができました。そこで第三に、彼はその力が自分のものであるとして、高ぶったのです。第四に、その高ぶりのゆえに王座から退けられ、獣のようになってしまいました。けれども、第五に彼は、人間の国はいと高き神が支配しておられることを知り、また御心のままに王を立てられることを知りました。これは、とても辛い体験でありましたが、彼はそれでもその懲らしめから学び、へりくだることができたのです。

3B 偶像礼拝の愚かさ 22-24

²² その子であるベルシャツアル王よ、あなたはこれらのことをすべて知っていながら、心を低くしませんでした。

「知っていながら」です。自分の祖父ネブカドネツアルが獣のようになって、草を食べる生活を送っていたとき、彼は 14 歳ぐらいでした。もう、何が起きているのかはつきり分かっていたはずで、イエス様は、「ルカ 12:48 しかし、主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません。多く与えられた者はみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます。」と言われます。

²³ それどころか、天の主に向かって高ぶり、その宮の器を自分の前に持って来させ、あなたと貴族たちとあなたの側室や侍女たちは、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しました。しかしあなたの息をその手に握り、あなたのすべての道をご自分のものとされる神を、あなたはほめたたえませんでした。²⁴ そのため、神の前から手の先が送られて、この文字が書かれたのです。

「天の主に向かって高ぶり」とあります。エルサレムの神がネブカドネツアルをそのようにされたのなら、大胆にも「俺は、そんなことにはならないぞ」ということで、敢えて、神殿の金の器でぶどう酒を飲んだのです。アッシリアの王がエルサレムにいるヒゼキヤ王を脅迫したとき、主は、彼に対してこう答えられました。「イザ 37:23 おまえはだれをそしり、だれをののしったのか。だれに向かって声をあげ、高慢な目を上げたのか。イスラエルの聖なる者に対してだ。」ユダヤ人は所有の民、イスラエルは主の所有の地でした。ここでは、主の所有の器です。どんなものでも主はご自身がそ

しりを受けたとみなされます。

さらに、偶像の空しさをダニエルは述べています。「見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々」です。有名なのは、詩篇 115 篇です。「115:4-7 彼らの偶像は銀や金。人の手のわざにすぎない。5 口があっても語れず目があっても見えない。6 耳があっても聞こえず鼻があっても嗅げない。7 手があってもさわれず足があっても歩けない。喉があっても声をたてることができない。」それから、「あなたの息をその手に握り、あなたのすべての道をご自分のものとされる神を、あなたはほめたたえませんでした。」という言葉は究極の皮肉です。天の神など知らないのだ、と発しているその息が、天の神によって造られているのですから。

4B 文字の解き明かし 25-28

²⁵ その書かれた文字はこうです。『メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。』²⁶ そのことばの意味はこうです。『メネ』とは、神があなたの治世を数えて終わらせたということです。²⁷ 『テケル』とは、あなたが秤で量られて、目方の足りないことが分かったということです。²⁸ 『パルシン』とは、あなたの国が分割され、メディアとペルシアに与えられるということです。」

おそらく、アラム語の子音のみの文字だったのではないかとされています。母音がないので、何のことが分からなかったのです。それをダニエルが解釈しました。「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」です。意味はメネが「数える」、テケルが「量る」、そして「ウ・パルシン」は「分ける」です。けれども、その言葉が分かっていても意味を解き明かさなければいけません。

メネの「数える」が表しているものは、彼の治世です。神は数えて、それを終わらせられました。主は、私たちに終わりの時を定めておられます。その時に、主に対して何を行ったのかにしがって、報いを受けます。ですから、その日のことを思いながら今の日々を数えていく姿勢が必要です。「詩 90:12 どうか教えてください。自分の日を数えることを。そして私たちに知恵の心を得させてください。」そして、もしかしたら今日が終わりの日かもしれないのです。今日、主にお会いする備えができているかどうか？であります。「ヤコブ 4:13-15 「今日か明日、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をしてもうけよう」と言っている者たち、よく聞きなさい。14 あなたがたには、明日のことは分かりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です。15 あなたがたはむしろ、「主のみこころであれば、私たちは生きて、このこと、あるいは、あのことをしよう」と言うべきです。」

テケルの「量る」が表しているのは、彼の行ないです。天秤で量られて、目方が足りないことが分かったということです。神は公正な方です。決して、理由なく裁かれることはありません。「ローマ 2:9-11 悪を行うすべての者の上には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、苦難と苦悩が下り、10 善を行うすべての者には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。」

11 神にはえこひいきがないからです。」えこひいきはなさない方です。」

そしてウ・パルシンの「分ける」が意味しているのは、メディア・ペルシア連合軍が今、バビロンの都に入って、彼を倒し、そしてメディア・ペルシア帝国が始まることを意味しています。ペルシアの国がメディアと戦い、すでに併合していました。そしてメディア人のダレイオスが初めに治め、それからすぐにペルシア人の王キュロスが治めます。つまり、これまで持っていたバビロンの財宝、その栄光は全てメディアとペルシアに明け渡されることになるのです。

イエス様は、金持ちの喩えも語られています。ある金持ちの畑が豊作で、倉を立てて、これから何年も安心して、食べて、飲んで、楽しむことができると思いました。「ルカ 16:20-21 しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』21 自分のために蓄えても、神に対して富まない者はこのとおりです。」神の前に富むのです。つまり、全てを神の前に持って行くのだ、ということを考えながら、人生設計を立てます。自分のために蓄えたら、いつか全て取り去られます。

4A 突然の破滅 29-31

²⁹ そこでベルシャツアルは命じて、ダニエルに紫の衣を着せ、金の鎖を首にかけさせ、彼がこの国の第三の権力者であると布告させた。³⁰ その夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺された。

「その夜」であります。あっけなく殺されます。今読んだ、愚かな金持ちと同じです。次回は、このことについてじっくりと見ていきます。バビロンは世の偶像礼拝と富の象徴であり、それは、一日にして滅びるという預言がたくさんあります。

私たちはイザヤ書の、キュロス王の預言を先ほど読みました。「45:1 わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。」キュロスは、バビロンの町を攻略するためにユーフラテス川を迂回させる計画を立てました。バビロンの町を南北に流れる川で、北の上流のほうを近くの湖にまで送る水路を掘らせました。そして、軍をユーフラテス川がバビロンの中に入って行く所と、南の、川が流れ出るところに配置させました。

ベルシャツアルは、川の迂回工事を、町の外に要塞でも建てているのだろうとぐらいしか考えていなかったに違いありません。そして、川の水かさが減っていきました。そこで柵の下を通れるほど浅くなり、中に入っていました。けれども川の両側は壁です。東西をつなぐ橋のところまで行きました。そこにももちろん門があり、普通は閉められているのですが、その日は何と宴会のために門番も泥酔していて、その青銅の門が開いていたのです！それで難なくペルシア軍は宮殿の中に入ることができ、その宴席の場でベルシャツアルを殺したのです。「彼の前に扉を開いて、その門

を閉じさせないようにする。」文字通り、成就したのです！

³¹ そして、メディア人ダレイオスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。

話は 6 章に続きますが、バビロンを倒した後はすぐ、暫定的にメディア人のダレイオスが王として統治します。イザヤとエレミヤの預言には数多く、バビロンを倒す者としてメディア人の名が出て来ます。

このようにして、へりくだって悔い改める者には神は恵みをくださいますが、高ぶって心を頑なにする者には、自分たちが持っているものすべてを主は取り去られるのだということを知る必要があります。それが、世の終わりのしるしです。